



飾り物にはなりたくない

——『ゴースト ニューヨークの幻』のデミ・ムーア、『リタイアマン』のジュリア・ロバーツ……たくさんの海外ヒロインの吹き替えを

していますが、役作りはどのようにされるのですか。

吹き替えは、最初にDVDを渡され、それを観て場面ごとの役の感情や変化を自分なりに理解することから

感情を運動させれば、人はもつと魅力的になれる

始めます。

ただ、今はそうやって「予習」ができますが、私がこの仕事を始めたのはDVDどころかビデオも普及していない時代。収録現場で初めて映像を観てリハーサルを1回。それでさあ本番、なんてことがザラ。しかも声優がそろって吹き替えを行う同時録音が普通だったので、1人がとちれば全部録り直し！ 今とは緊張感が全然違いましたね。

——もともと声優としてキャリアをスタートされたのでしょうか。

高校を卒業して、最初はビジネスイベントのナレーター

ゲスト声優
高島雅羅氏



をしていました。全国各地の展示場で、来場者に某大手電機メーカーの最新コンピュータの説明をする仕事です。私自身は製品の隣にニッコリ笑顔で立って、ある時間になると丸暗記

プロフィール

たかしま ちから。1954年、東京都出身。海外映画でジュリア・ロバーツ、シャロン・ストーン、デミ・ムーア、ジョディ・フォスターなど多数の海外ヒロインの吹き替えを行う。韓国ドラマ「イ・サン」チونس王妃役、アニメ「名探偵コナン」妃英理役などドラマやアニメ、TVナレーションでも活躍中。声優歴は30年以上。劇団薔薇座などを経て、現在は俳協に所属。夫は声優の銀河万丈。



した解説文をしゃべるだけで、コンピュータの知識なんてありません。

あるときお客様から急に製品の機能について質問されたんです。それで絶句。張り付いた笑顔のまま、「それは説明を始めます」とまた最初からやった(笑)。

これは自分でもシヨックでした。確かにしゃべることは大好きだけど、このまま中身の無い飾り物になるのは嫌だと思われました。そんな時に知人からあるプロダクションを紹介され、そこで吹き替えの仕事をしていただくようになりました。これが声優のキャリアの始まりです。

感情豊かな人は魅力的

——声優として、俳優として、一番大切にしていることはなんですか。

「感情の運動」を普段からしつかりすることですね。役者は感性が命ですから、仕事以外でも芸術、映画や本にたくさん触れる。泣けるストーリー、笑えるコメディ、なんでも観て心を頻繁に動かします。そうやって感情の運動を怠らないと、いろんな感情を豊かに出せるようになります。切り替えも素早くできるようになります。

私たちは現場に来る直前にすごく嫌なことがあったとしても、仕事では大喜びの場面を演じなくてはいけないことがあります。そんなとき、感情をうまくコントロールして、喜んでいる自分へとスイッチを入れるわけです。普段から感情を運動させていけば、その切り替えがスムーズにできるし、短時間でいい仕事ができます。

——具体的にはどうやってコントロールするのですか？

私の場合、例えば幼いころの、絶対に忘れられない幸せな記憶を呼び起こします。それで自分の心の中を喜びの気持ちで満たすわけです。これをやらないと嘘の演技になって、

観ている人に伝わらないですよ。それに声と内面はインパクトタイプな関係性にあると思います。内面が声に表れると、その声の内面の感情をますます増幅させてくれる。だからこそ、内面からしつかり演じるようにしています。

ビジネスマンも感情のコントロールは必要ではないでしょうか。朝から晩までずっと不機嫌な人って、いるでしょう？(笑)。そういう人は魅力がないし、だからチャンスも少ない。

生きていけば、時にはマイナスの感情を持つのは仕方ない。でも、それを自覚しながらも、プラスの感情にコントロールするとうまくいくことってかなり多いと思うんです。そのためには、映画や本に触れるのもそうだし、嬉しいことがあったらちゃんと嬉しがって、日ごろから意識的に感情を運動させておくことが大事ですね。

会話は相手との距離感が大切

——声優のほかに、ナレーションの仕事も数多くされていますが、話のプロとして、相手に伝わる話し方のポイントは何かとお考えですか。

距離の取り方はすごく大事だと思います。近ごろこれがで

きない人が増えてますね。ファーストフードのお店で、店員さんから「ポテトはいかがですか」と尋ねられても、なぜか自分に言われているような気がしない。そんなことってありません？ 会議などで大勢を前に話しているのに、なぜか独り言を言っているような人もいますよね(笑)。

目の前に1対1で相手がいる場合、離れて複数いる場合。話し方には、声の大きさ、トーン、速さ、間、音色などいろいろな要素がありますが、それぞれのコミュニケーション距離によつて使い方を要するべきなんです。

——室蘭製鉄所の事業所紹介ビデオのナレーションを担当いただきました。当社の印象は？

リクルート編で登場した若手社員さんたちが、こだわりを持つもののづくりをしている姿が印象的でした。先輩から継承してきたこだわりの姿勢は、実は私にも共通点があるなと思いつつナレーションをしていました。

生まれ変わったら、声優になるかどうかはわかりませんが、なにか一つのこと、こだわり続ける仕事に必ず就くでしょうね。こだわり続けることが、私には一番素敵なことだと思う。いまでも言葉の一つ一つ、これでいいかと自問自答しながらやっています。

——これからの抱負をお聞かせください。

私たちの仕事は、選ばれないと始まりません。だから選ばれ続けるための努力を続けていくことですね。俳優は生きていくことすべてから学べる仕事。ちゃんと生きていないと良い仕事はできないと思うし、いろんな感情を知って、蓄積して、仕事で出せるようになりたい。だから普段から、「あ、私、こんな気持ちになった」という瞬間をしつかり覚えておくようにしています。面倒ですが(笑)、これも職業病みたいなものですね。



ナレーションの録音風景